2010年マイワシ

単位：数量，1,000トン、価格，円／kg

年	数量														
	生産	産地	輸入		輸出		東京		在庫	加工品生産					消費支出
			ﾐｰﾙ	生冷	生冷	缶	生	煮干		缶	身ｶｽ	塩蔵	煮干	塩干	生(ｸﾞﾗﾑ)
21	57.4	42.7	278.5	22.2	0.6	0.1	4.4	2.9	16.4	5.1		0.7	28.1	19.3	767
22	73.1	54.6	321.0	9.7	1.7	0.1	6.3	2.4	10.5						834
%	127	128	115	44	262	57	144	84	64	0	－	0	0	0	109

年	価格							
	産地	輸入		輸出		東京		消費支出
		ﾐｰﾙ	生冷	生冷	缶	生	煮干	生(円)
21	110	93	79	119	550	399	531	608
22	111	134	80	120	587	372	533	643
%	101	144	101	101	107	93	100	106

海域	21	22	対比(%)
道東	0	0	－
三陸	3	4	134
常磐	28	37	131
九州	0	1	568
山陰	6	5	73
その他	4	8	207

MAX：S63年 4488千トン

漁　獲　量　と　資　源

22年のマイワシの漁獲量は、まだ絶対量としては少ないながらも7.3万トン前後と前年の5.7万トンをかなり上回った。

道東漁場では、引続きマイワシの漁獲は皆無であったがカタクチイワシは約20,803トンで前年(7,138トン)を大幅に上回った。北部太平洋海域のマイワシの漁獲は常磐海域での漁獲が引続き好調で前年をかなり上回った。また、山陰では、まだ混獲主体の漁獲で前年をかなり下回る漁獲であった。

太平洋系群のマイワシの資源量は、1981～1988年の間1,400万～1,900万トンと高水準で安定していたが、1989年から急減し、1994年に88万トンとなった。1995～1999年までは70万トン強で比較的安定していたが、2000年から再び減少しはじめ、2002年以降2007年まで10万トン台で推移した。2008年以降は増加傾向がみられ、2009年当初資源量は20万トンと推定された、と発表されている。

対馬暖流系群のコホート解析の結果から、資源量は1970年代から増加し、1988年には1千万トンに達した。その後減少し、1995年には100万トンを下回り、2001年には1万トンを下回ったと推定される。2004年以降は増加し、2005年以後は再び1万トンを超え、2009年の資源量は2.8万トンと推定されている。資源水準は極めて低位にあり、動向は増加傾向と判断されている。

産 地 水 揚 量 と 価 格

22年の水揚量は、5.5万トンで前年（4.3万トン）をかなり上回った。価格は、111円でほぼ前年（110円）並みであった。

北部太平洋海域での漁は、本年も常磐主体であり、引続き昨年をかなり上回った。

なお、本年のミール相場も、年明け後は前年来の17万円／トンから始まり、1月下旬に20万円／トンと急騰し、この価格が年末まで続いた。

三　　陸

三陸（単位：1000トン）

月	21年	22年
1	0.0	0.0
2	0.0	0.0
3	0.0	0.0
4	0.0	0.0
5	0.0	0.0
6	0.0	0.4
7	0.0	0.0
8	1.2	2.5
9	0.4	0.1
10	0.9	0.0
11	0.7	0.8
12	0.0	0.5
計	3.3	4.4

MAX：S61年1097千トン

常磐（単位：1000トン）

21年	22年
0.0	2.0
0.0	0.2
0.6	0.1
0.2	0.8
0.0	0.6
6.8	8.1
12.8	13.1
6.0	7.2
0.1	0.5
0.4	0.5
0.8	4.8
0.8	1.4
28.4	39.2

MAX：S58年822千トン

山陰（単位：1000トン）

21年	22年
0.0	0.1
0.0	0.4
0.0	0.8
0.9	0.5
0.0	2.1
0.0	0.1
1.1	0.1
1.4	0.1
2.0	0.1
0.6	0.2
0.1	0.1
0.0	0.0
6.1	4.5

MAX：H元年713千トン

日本海北（単位：1000トン）

21年	22年
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0

MAX：－

22年の三陸での漁況は、初漁期（北上期）の４，５月は漁獲皆無、夏場にかけては昨年を上回った。

秋から冬場の南下期は昨年をやや下回る漁獲となった。

魚体は、周年を通じて2009年級群主体に漁獲された。

常　　磐

22年の常磐での漁況は、初漁期は比較的良かった前年を越える良さで、北上期においても前年を上回った。また、後半の南下期も前年を大きく上回り、まだ往時にはとどかないものの来年以降に期待を持たせた。

魚体は、周年を通じて2009年級群主体に漁獲された。

山　　陰

22年の山陰での漁況は、上半期において昨年を上回る好調さであったが、その後の夏場以降秋口にかけては、全漁期を通じて昨年をやや下回った。

また本年も上半期４，５月に集中的にまとまったカタクチイワシの漁獲があり、水揚げも前年を上回った。

在　庫　量

本年の平均在庫量は、1.1万トンとなり前年(1.6万トン)をかなり下回った。これは、国内生産が昨年を大幅に上回ったものの輸入が大幅に減少し、輸出が増加した結果である。越年在庫は1.1万トンで引続き前年(1.4万トン)を下回った。

輸　出　入

本年の輸入ミールは、32.1万トンで前年（27.9万トン）を上回った。

輸入ミールは２１世紀に入って再度増加傾向を見せて、この2001,2002年間は40万トン台に輸入量も回復しつつあり、2006年も2002年以来の40万トン突破となったが、2007年以降市況が高騰やアンチョビーの不振もあって30万トン台前半の水準で、しかも昨年は20万トン台に落ちたが、本年は再度30万トン台前半の水準に戻った。

また、平成７年頃から餌料不足により外国(米国、メキシコ)からの原魚輸入もみられていたが、現在も、依然この両国が主体であるが本年は、国内生産が上昇していることもあり生・冷マイワシは（夫々2,837トン、3,737トン）とやや減少している。こうした、缶詰主体に鮮魚向け、一部は餌料にも国産の代用品として利用・販売されている。また、その他少ないながらもカナダを始めアジア諸国、ＥＵ等からも輸入されている。本年は1万トンで前年（2.2万トン）を大きく下回った。

輸出は缶詰と冷凍に分かれるが、缶詰輸出は、サバ缶同様減少の一途を辿っているが、本年は83トンで前年（146トン）を更に下回った。

また、冷凍輸出は国内漁獲が増加したことを反映し1.7千トンと前年(0.6千トン)の3倍増となった。

価格は、缶詰が587円で前年（550円）をやや上回り、冷凍は120円で前年（119円）並みであった。

消 費 地 入 荷 量 と 価 格

本年の東京の入荷量も、6.3千トンで前年（4.4千トン）をかなり上回った。

マイワシは近年の資源量の低水準の中でも産地水揚げの増加もあって、消費地でのマイワシの入荷も増加した。

価格は、372円で前年（399円）をやや下回ったが、入荷の増加を反映した結果であった。なお、家計消費でみると今年も引続き数量、購入金額とも増加している。

煮干しは、2.4千トンで前年（2.9千トン）をやや下回った。